ポル・ポトの犯罪

カンボジアの首都プノンペンの中心部にある三階建ての高等学校がポル・ポトによって地獄に変えられた。

トゥール・スレンがそれで、今、そこはポル・ポト時代の虐殺記念館になっている。

有刺鉄線で囲まれた旧高校校舎は本来、教室であったものが、窓には鉄格子が入れられ、ブロックの壁で細かく仕切られて独房にされた。各独房には当時使われた小さな鉄製便器の箱、手足をしばる鎖がさびたまま置いてある。

二階に上がると処刑された人たちの写真がずらりと並ぶ。

ところどころに、わずかに生き残った人の証言から拷問の様子が絵で展示してある。一番奥に頭蓋骨でつくられたカンボジアの地図があった。しかしあまりにむごいので今は展示されてなかった。

何という悲惨な場所だろう。

殺された女性は赤ちゃんを抱いていた

処刑された人々の写真

狂信的共産主義者、ポル・ポトが強行した社会改革で、文化人、知識人、教師などはここに収容され、拷問を加えられて尋問された。その数は二万人にのぼり、生還した人はわずか七人だったという。

実際に処刑された場所は、ここから十キロあまり離れたチュンエク村、通称〝キリング・フィールド〟と呼ばれる場所で、遺体は百二十九カ所に埋められていた。

赤ちゃんを抱いた写真の若い女性は教師で、教師であること、また知識や文化的なことが罪だとして殺された。人間の否定である。

女性の目はカメラに向かって私たちに何かを訴えているように思えた。

故ヨハネ・パウロ二世が被爆地広島からの平和メッセージで「戦争は人間の仕業であり、命の破壊」と言われた。

ポル・ポトは国を治めるために大勢の国民を殺した。人間の仕業どころか、悪魔の仕業と言うべきもので、これほどひどい犯罪はない。

また殺されないまでも、多くの市民は都市から農村地帯に追い出され、そこで強制労働を強いられた。

前回紹介したマザー・テレサの修道会のシスターたちは自分を弱者のために捧げる生涯を送る。一方、ポル・ポトのように罪なき国民を殺すやからもいる。

人間の中にある、いや自分の中にもあるかもしれない二面性。虐殺記念館を出る時、もう一度振り返った。

三階建ての校舎で息をころして見たあの風景は今も忘れることができない。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

処刑場から出てきた頭がい骨の山